

研究タイトル：「近世期の御蔵所の空間構成原理及び地方性」  
「歴史的建造物の保存・活用に関する研究調査」



氏名：	相模 誓雄 / SAGAMI Chikao	E-mail：	sagami@sendai-nct.ac.jp
職名：	准教授	学位：	博士(工学)
所属学会・協会：	日本建築学会, 日本民俗建築学会		
研究分野：	建築史		
キーワード：	歴史的建築, 文化財, 蔵, 古文書, 保存・活用, コンピューター・グラフィックス		
技術相談 提供可能技術：	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歴史的建築の調査及び評価</li> <li>・古文書解読</li> <li>・コンピューター・グラフィックスによる復元等のイメージ作成</li> </ul>		

研究内容：

建築学の建築歴史・意匠分野の研究を行っております。専門は日本建築史で、近世の幕府や諸藩の施設の中でも、財政上最も重要な施設であった御蔵所を対象にしています。御蔵所は、村々から運ばれてくる年貢米の徴収、保管、廻米に用いられる物流施設であり、全国各地の幕府領や諸藩領に多数設けられておりました。しかし、明治維新後の廃藩置県、租税の金納化によって不用になり、学校建築などに転用されるものもありましたが、現在では建築遺構はわずかになっております(Fig.1)。しかし、見取図等の史料が残されている地域がありましたので、藩毎に建物配置や御蔵の建築構成について検討してきました。対象地域は、藩政時代に稲作が行われていない北海道を除く我が国全域であり、これまで主として東北地方や日本海側の豪雪地帯について、藩毎に建物配置の型式及びその形成要因を明らかにしてきました。建物配置の型式は、藩毎に特徴があり、3ヶ国に渡る領地を有する大藩の加賀藩では、国毎にも違いが見られました。このような地方性は近世文化の多様性を表すものとして注目されます。また、御蔵の増築手法や御蔵の庇には規則性があり、御蔵以外の作業屋が型式に及ぼす影響が予想され、このような全国の御蔵所に見られる空間構成原理や地方性について研究しております。

一方、地元では「なとり歴史的建造物研究会」を設立して代表を務め、名取市と連携して、市内の歴史的建造物の残存状況の調査及び、歴史的景観を形成している重要物件の詳細調査を行いました。東日本大震災では多くの歴史的建造物に被害がありました。震災をきっかけに地域のアイデンティティーを示す文化財への関心が高まっています。県南の村田町では、震災で中心地区の店蔵などに被害がありました。また、近代化や空洞化により店蔵の姿が失われてきました。震災後の国による重伝建地区選定をきっかけに町並みの復元が課題になり、県建築士会より復元図の作製を依頼されました(Fig.2)。石巻市の旧ハリストス正教会教会堂の復元図(Fig.3)などコンピュータを駆使して作製したCGは自治体などでご活用いただいております。また、戦後に建てられた現代建築も建替えの時期になっていますが、十分な評価が行われず、取り壊されるケースが見られます。建築の評価を行い、利用法の転換を探ります。建築や町の変遷、過去の暮らしを語る古文書等も消失の危機にあります。これらを解読し、未来へ継承するための技術を提供します。



Fig.1 鳥取藩御蔵(橋津)の遺構の調査及び評価



Fig.2 国重伝建地区町並み復元CG



Fig.3 震災復興建造物復元CG

提供可能な設備・機器：

名称・型番(メーカー)

名称・型番(メーカー)	